

白石勝彦氏（正会員）
平成12年春 叙勲 勲5等双光旭日章を受章

去る5月11日、通商産業省において、当協会元理事
長白石勝彦氏が当協会からの推薦により、長年に亘るイ
ンテリアデザイン、及びインテリア産業の振興に対する
功績で、勲5等双光旭日章を受章されました。ご本人は
もとより当協会にとっても大変名誉なことであり、皆様
にご報告いたします。（事務局）

叙勲受章に想う

正会員 白石 勝彦

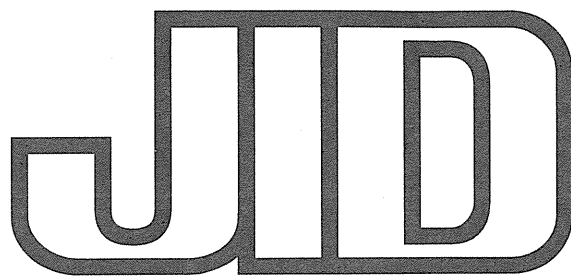
この度、平成12年
春の叙勲に際して、
はからずも勲五等双
光旭日章受章の栄に
浴し、身に余る光栄
と恐縮しております。
これも会員の皆さん
のご指導、ご鞭撻の
賜と深く感謝申し上
げます。

デザインを通して
産業振興に貢献した
ことが受章の理由と
聞き及んでいますが、私としては、社団法人日本インテ
リアデザイナー協会の一会員として「やらなければなら
ないこと」や「やりたいこと」をただで、それがこ
のように顕彰されたことについて大変面映ゆい気持ちで
す。敢えて言えば、目の前に当面した事項に対して、全
力で報いを求めず当たったことが認められたとすると、こ
れは「奉仕の精神」がそうさせたものだと思います。
「奉仕の精神」を育んだのは、30年来のボーイスカウト
活動の成果だと思います。

この年齢まで心の健康、体の健康を維持出来たのは、
野外活動の中で自然を愛し、人を愛しながら、子供達と
一緒に楽しい日々を過ごした賜だと感謝しております。

デザイン業務からリタイアした現在、私の「やらなけ
ればならない」「やりたい」ことは「奉仕の精神」を育
んでくれたボーイスカウト活動を続け一人でも多く「奉
仕の精神」を持った若い人材を育て、21世紀の中核に
なってくれることを願っています。

最後になりましたが叙勲に際してご推薦頂いた協会役
員各位と、多忙の中煩わしい申請業務を処理して頂いた
事務局各位に対して深甚なる感謝の意を表したいと思ひ
ます。



NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

2000

6・7

「目 次」

● 白石氏勲5等双光旭日章を受章	1
● 今井氏国井喜太郎産業工芸賞を受賞	1
● 坂田氏勲4等瑞宝章を受章	2
● 「e-one」に思うこと	2
● 九州事業支部事務局就任について	3
● 平成11年度第6回理事会報告	4
● 訂正とお詫び	5
● ライフスタイル設計競技報告	6
● インテリアインターンシップ発足	9
● 訃 報	10
● JID NEWS 関東	12
● JID NEWS 中部	14
● JID NEWS 関西	16
● 新入会員の紹介	18

今後も社団法人日本インテリアデザイナー協会の一會
員として、尽力する覚悟ですのようしくご鞭撻の程、
お願い申し上げます。《有り難うございました》

今井 滋氏（旧名誉会員）
第27回 国井喜太郎産業工芸賞を受賞

去る4月21日、財団法人工芸財団において、当協会
旧名誉会員今井 滋氏が当協会からの推薦により、長年
に亘る全国的な規模で近代デザインの推進と、普遍性
のある家具産業の育成に寄与した功績により、第27回国
井喜太郎産業工芸賞を受賞されました。

ご本人はもとより当協会にとっても大変名誉なこと
であり、皆様にご報告いたします。（事務局）

第27回 国井喜太郎産業工芸賞を受賞して

関東事業支部会員 今井 滋

およそ、賞というものには縁がないものと思っていましたので驚きました。

これひとえにデザインに関する話を聞いて下さった方々、作って下さった方々、売って下さった方々などのお陰と感謝しています。

過去の資料を集めてみて、日本国内各地ばかりでなくヨーロッパ各国や中国・台湾・東南アジアの多くの国の方々にもお世話になりました。

家具が上流階級のステータス・シンボルだった時代の家具デザイナーたちは、芸術家としての自分の感覚と主張のすべてを盛り込んだ優美な形をつくりあげました。サイズも自由、素材も自由、費用のことなど考えたこともありませんでした。しかし家具が大衆のものとなり、大量生産、大量販売がメーカーにとって至上命題となると、こうした芸術家は家具づくりの現場から姿を消していきました。現代の家具デザイナーたちは、常に美しいフォルムを求めつづけていますが、出来上がった作品は必ずたくさん売れなければならない。メーカーはそのためにすべての力をかたむける。コンピューターがえがき出した大衆の好みに合わせて、家具デザイナーの個性や主張は何の遠慮もなくカットされます。制約がいっぱいあるなかで、いかに安く、機能的で、美しい家具を造るか。自分でわいてくるデザインを絵にしてみる。作品としての家具のどこかにそれが取り入れられ、その家具が街にでる。いくらこれこそがデザインだと自分で納得がいても、それを見てくれる人がいないのではだめだと思います。

昭和40年代以降の家具の生産技術は、能率を上げるために、作業を細分化し、標準化し、機械を入れ、熟練工でなくても、だれにでもできるようになってきました。これでは作られた製品は皆同じようになり、デザイナー達が一生懸命つくりあげたデザインの入る余地がありません。いわゆる富士山の7合目あたりに棚引く雲の下の商品ばかりです。日本の生産技術は高度成長時代の環境にあまりにも順応し過ぎてしまいました。量産化、低コスト化、そして省力化に極端に特化してしまいました。いわば「雲の下」の生産技術です。同じ機械・同じような材料・同じような技術では、安い材料・安い人件費などで作られる製品に日本の業界は負けてしまいます。

例えば、特殊なものをつくらうとすれば、特殊な刃の研ぎ方が必要になります、新しい道具を作ることも必要です。それができるのは、昔ながらの技術を知っている「熟練工」しかいません。熟練工の持っている技術は、技術的には計測できないものがたくさんあります。人間の手というか、勘というか、感覚的なものが要求されま



す。これがなくては「雲の上」の製品は作ることができませんし、「雲の下」の製品に対抗できません。デザイナーの思うような製品も出来ないと思います。精度の高いものを作ろうとするとどうしても人間の手というか、勘というか、感覚的なものが要求されます。五感すべてを動員して、最後に第六感を働かせる。手づくりというよりは、体全体でつくっている。それが最先端技術分野での仕事ぶりだと思います。そのためには熟練工が必要です。昔ながらの職人に代わる「熟練工」の育成がもっとも必要だと思います。

坂田種男氏（旧名誉会員） 平成12年春 叙勲 勲4等瑞宝章を受章

去る5月11日、通商産業省において、当協会旧名誉会員坂田種男氏が工業技術院からの推薦により、長年に亘る日本工業規格の制定普及の功績により、勲4等瑞宝章を受章されました。ご本人はもとより当協会にとっても大変名誉なことであり、皆様にご報告いたします。

5月11日の受章式は当協会推薦の白石勝彦氏とのダブル受章となり、おめでたい事が重なりました。

（事務局）

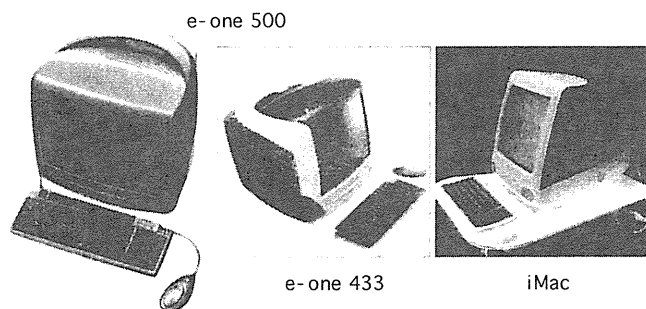
「e-one」に思うこと

本部・デザイン保護委員会担当理事 小宮 容一

手元に1999年9月21日の日経産業新聞第1面の切り抜きがあります。見出しに「製造販売禁止の仮処分決定」「模倣文化に法の警鐘」「スピード審査。広い違法対象。特許訴訟に影響大」とあります。ご存じの、アップルコンピュータが「iMac」のデザインを模倣したとしてソーテックを提訴した問題で、東京地裁がソーテックに製造・販売を禁止する決定をした記事です。

これを受けてソーテックは、問題の「e-one433」を9月21日には製造・販売を中止します。しかし、9月28日には新製品「e-one500」を発表します。スペックは向上してはいますが、形態は一見「e-one433」と同様で、色彩をシルバーに変更しただけとしか思えないものです。

模倣した、してない、消費者が混同する、しないといった問題以上に、企業のモラル、デザイナー・設計者のモラルの方が、我々デザイナーにとって大事な問題であると思います。

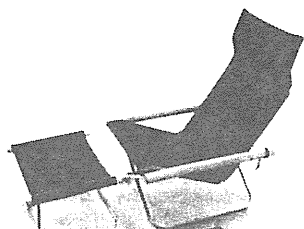


さてJIDデザイン保護委員会も加わる日本デザイン団体協議会のデザイン保護研究会では、平成11年度は「著作権」について議論しているところです。現在の「著作権法」では、デザインの立場は明確ではなく、新居猛会員の訴訟に於いて「観賞の対象となる美術品には著作権はあるが、実用の椅子には著作権はない」の判例が示しているところは、デザインには著作権がないのごとくです。デザイン保護研究会をはじめ我々デザイナーの立場は、デザイナーの知的権利を意匠法より高次の著作権法によって認めるよう求めるところにあります。

著作権法第2条第2項で「この法律にいう『美術の著作物』には、美術工芸品を含むものとする。」と規定しています。すなわち、純粋美術以外で実用品であっても「美術工芸品」は著作権法によって保護されています。ではデザイン品は美術工芸品なのでしょうか、我々がデザインする椅子はどうでしょうか、岡本太郎の「座ることを拒否する椅子」はどうでしょうか。法律用語の解釈は難しいものです。岡本太郎の椅子は、



座ることを拒否する椅子



ニューチェアX

美術工芸品？で著作権ありとなるのでしょうか。

「応用美術」という言葉があります。これは①美術工芸品、装身具等実用品自体であるもの。②家具に施された彫刻等実用品と結合されたもの。③文鎮のひな型等量産される実用品のひな型として用いられることを目的と

するもの。④染色図案等実用品の模様として利用されることを目的とするもの。を指しています。私的には③に注目します。「量産を目的とした椅子のひな型」はどうでしょうか。しかし、ここではあくまで「美術」でなくてはならないのであって、デザインは美術とは認められないのです。②も、家具に著作権があるのではなく施されている美術的・芸術的彫刻に著作権があると言っているのです。

昨年改正された「意匠法」にも「デザイン」の片仮名文字はありません。あくまで「意匠」なのです。まず言葉からも変革・勝利していかななくてはならないのです。イギリスにDesign Copyright（デザイン著作権）の制度があります。私見ですが、現行の美術・芸術を保護する「著作権法」の中に「デザイン」を認めるよう運動するよりは、別途、新しい概念として「デザイン著作権法」を設定して、進めて行くのが良いのではないのでしょうか。

それにしても「e-one」をめぐる模倣というのモラルが粛清されなくては、また、芸術・美術の贋作に対する高いモラルにまで、高めなくては、到底「デザイン著作権法」を主張することは出来ないでしょう。

九州事業支部事務局が変わりました。

九州事業支部事務局

松本意匠 松本 豊

〒833-0016 福岡県筑後市常用819-7

TEL 0942-52-7192 FAX 0942-52-9535

E-mail hou@po.saganet.ne.jp

九州事業支部事務局就任について

九州事業支部 正会員 松本 豊

九州支部の規約で2期4年支部役員を経験したものは、1期2年だけは役員選挙の被選挙人から免除されることになっています。私はそれまでの役員経験年数から平成10年・11年はその免除期間で、支部活動を受身の立場として前役員の皆さんに頼れる楽な2年を過ごさせてもらいました。

しかし楽な時ほど時間が過ぎるのは早いものです。もちろん支部の活動を間引きして見ているようなものですが、早いはずはです。楽な2年が過ぎて次に私を待っていたのは事務局でした。歴代の事務局経験者の方々を見てきてその苦勞を良く知っている私としては、私にできるだろうかと不安です。

事務局の任を受けた以上努力は惜しまないつもりですが、私も入会したころとは異なり体力も時間も少なくなりました。ぜひとも皆様のご協力をお願いします。

平成11年度第6回理事会報告

①会議名：平成11年度第6回理事会

②日時：平成12年3月22日(水) 13:30~16:00

③場所：JID本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 8F

④出席者：理事総数15名中(本人出席13名)

(理事長) 泉 修二

(副理事長) 中川帛子、夏原晃子

(理事) 浅野盛治、今崎 務、岩倉榮利、
木村戦太郎、吉良ヒロノブ、
阪井良種、関 里繪子、中川千年、
中川千早、山本棟子

(委任) 小宮容一、山口道夫

(監事) 栢原秀榮(欠席)、川上信二(欠席)

(事務局長代理) 峰尾 武

⑤議事

峰尾事務局長代理より「理事総数15名中、本人出席13名、委任状出席2名で本理事会は成立した。」旨報告。理事長が議長となり議題に入った。

Ⅰ 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部(阪井)

2000年1月NEW YEARS PARTY本部総務委員会支援。「デザイン職人四方山話」ビデオ編集、「JID関東ユース」会則・組織・募集要項の検討及び設立準備委員会開催。来期事業計画、年間スケジュールを作成を資料により報告。

◆中部事業支部(関)

「日本の生活デザイン展」の反省会及び報告会の実施。活路開拓中部報告会の実施。JID中部学生賞の授与。日本オランダ交流400年記念「オランダ新人デザイナーの展示会」及び開会式に協力。(社)日本インテリアファブリックス協会「ミレニアム2000インテリアサロン」金沢会場に対し中部事業支部の後援を予定している旨報告。

◆関西事業支部(夏原)

フォーラム開催、参加者18名で前回に続き、具体的なテーマについて話合った。支部次期委員会を実施、八十会員を支部長に内定、新組織への移行準備の世話役を互選した。3月13日、木村新理事長予定者と山崎、喜多、佐々木の3理事予定者が懇談、次期体制に関して話し合いを持った旨報告。

◆九州事業支部(中川千年)

第3回役員会を実施、次期新役員予定者の決定、引継ぎ等を打ち合わせ。又インテリアデザイン展の開催及び今後の活動のあり方について検討。2月12日(土)「その後の北九州門司港レトロの様子」を見学。3月2日(木)九州デザイン交流プラザin大分にて、テーマ「ユニバーサルデザイン」で例会を実施した旨報告。

◆総務委員会(書面にて)

2000年 NEW YEARS PARTYを実施し、40周年記念事業及び各事業支部の活動状況をパネル展示。第32回通常総会の日程内定により、総会の準備並びに懇親会について早急に委員会を開催、計画する旨報告。

◆組織委員会(浅野)

JIDは何をしている団体かを外部に説明するための資料として、各支部の活動をまとめたPRペーパーを作成した。「会員のメリット」問題について、低料金で利用できる福利厚生サービス、ビジネスサポートシステムの検討に関して(株)ビジネス・コープ(三菱商事・東京海上等が出資)がベストであるとの結論に達し、加入の準備をする旨報告。なお、加入に対する承認は後半の議案事項とすることとした。また「日本デザイン協同組合」が昨年末通産省の設立認可を得て登記完了、現在85名/社が加入と報告。

◆国際委員会(中川帛子)

2000年度予算案の検討及び作成。海外よりの着信情報のチェック。APSDA 2000年総会が10月5日開催予定、主催団体HDII(インドネシアインテリアデザイナー協会)。また英国Melrose Press Limitedが計画中の“International Who's Who”の新シリーズへの登録資料を求めている。IFI e-newsの最近の内容等を資料により報告。

◆交流委員会(岩倉)

新春交礼会の協力、平成12年度計画案作成提出。今後淀江町との関わり方向付けとまとめ。12年度計画案についての引継ぎ。本部交流についての関わり等について検討をする旨報告。

◆広報委員会(吉良)

NEW YEARS PARTYにて「JIDインターネット」デモ開催をした。ぷららとのプロバイダー契約見直しについて打合せ、ホームページのアップロード(正会員1人、賛助会員バーナー2社)。今後の予定として、JID会員のメールアドレスのアンケートをとりIFIに登録する。関東事業支部国際委員会による「海外向けホームページ」制作。JID News「40周年特別号」発行、委員会活動のまとめと、次期委員会への引継ぎ打合せ等報告。

◆出版委員会(山本)

平成11年度の事業内容の経緯と検証を行い、平成12年度の事業計画と予算案を作成した。また、次期委員会の参考資料として、平成10年度、11年度の委員会活動をまとめ、ファイルを作成した。今後の活動予定として次期委員会への引継ぎを確実にを行う旨報告。

◆事業委員会(木村)

会員ワーク集(JID・1999)に関して、店頭販売数、在庫数の確認、全会員に無料配布計画の検討中。また、OZONEリビングデザインギャラリーに関して「JID賞展」は毎年恒例になる予定。その他の企画は募集中。

また当企画と関係なくJID会員の当ギャラリーでの展示会とは夫々の違いを解りやすくし、混乱を避けること等報告。また、「2000国際家具見本市 (IFFT2000) 特別展示」などをはじめとする受託事業新規開拓を行い、積極的にJIDの社会へのアピールと経済効果を期待と報告。

◆教育・研究委員会 (中川千早)

登録研究申請の件: 「住まいのインテリアを考える会」申請者 野田和子会員、メンバー 8 名、また、第 5 回研究会を開催、会員からの推薦図書 100 冊にまとめ推薦リストを作成、配布予定と報告。

◆デザイン保護委員会 (小宮理事委任出席につき書面にて)
日本デザイン団体協議会・第 3 回デザイン保護研究会を 3 月 30 日に開催予定、議題は著作権についてアンケート項目の検討を実施・集約、来年度も引続き委員会の存続を要請。また、文化庁より「著作権審議会権利の集中管理小委員会報告書」及び「同の概要」を委員会にて回覧中等報告。

◆活路開拓事業委員会 (中川千早)

「エコ・インテリアデザイン・ガイドブック」の編集及び報告書等の作成・提出が完了したこと等報告。

◆選考委員会 (書面にて)

2000 年 2 月 14 日 (火) 新旧の委員により引継ぎ会議を開催し、次期の活動計画、スケジュール、予算等について協議、最終審査に外部より特別審査員を招請することとした。また、3 月 17 日 (金) 新選考委員会を開催、大野美代子会員を委員長、岩倉榮利会員を副委員長に選出した旨報告。

(2) 平成 11 年度収支状況報告 (2 月末日現在)

平成 11 年度収支 (2 月末) 報告及び 40 周年記念事業収支 (2 月末) 報告について事務局代理より報告。

(3) 平成 12 年度事業計画及び収支予算に関して

平成 12 年度事業計画、予算案に関しては、新理事長予定者及び新理事予定者において今後調整と作成を行うこととした。

(4) 平成 11 年度年会費未納状況

事務局代理より配布した資料に基づいて 59 人 2 社について説明された。

(5) その他

・訃報: 栃谷賢一 (中部事業支部・正会員)

平成 12 年 3 月 1 日没 享年 64 歳

後藤宣夫 (関東事業支部・正会員)

平成 12 年 3 月 3 日没 享年 61 歳

・JID NEWS 発行予定 (5 月末予定)

・次回理事会開催予定 ('00 年度 1 回)

平成 12 年 5 月 26 日 (金)

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

II 議案

第 1 号議案 協賛後援名義承認の件 (3 件)

事務局代理が下記 3 件について説明した。なお、承諾書送付の際、招待状・入場券等の依頼を添えることにした。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎「デザイン・コンペティション'00 海南」

2000 年 4 月～12 月

主催 海南市、海南デザイン・ビエンナーレ実行委員会

◎「第 50 回東京インターナショナル・ギフト・ショー秋 2000」

2000 年 9 月 6 日 (水) ～ 8 日 (金)

主催 (株) ビジネスガイド社

◎「Inter Dec Asia 2001」

2000 年 5 月 8 日 (月) ～ 10 日 (水)

Singapore International Convention & Exhibition Centre

第 2 号議案 会員入退会承認の件 (20 件)

事務局代理が下記 20 件について説明した。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

正会員・入会 (2 件)

福岡 育子 (関西) 推薦人: 小宮 容一・中川 武

岩合 正仁 (関東) 推薦人: 峰尾 武・浅野 盛治

正会員・退会 (15 件)

松島由美子 (関東) 中川 武 (関西) アルベルト・リカント

(関東) 黒河 昭一 (関西) 伊藤 邦雄 (九州) 小川

武邦 (関東) 加納 恭子 (中部) 関口 英子 (関東)

栢原 秀榮 (関西) 千原 久光 (九州) 柴田 嘉夫

(関西) 帆足 英二 (九州) 長谷川隆之 (関東) 日下

部由紀子 (関東) 福田 武 (関西)

賛助会員・退会 (3 件)

(株) 森傳 (株) リバコトレーディング (株) 東京デザインセンター

第 3 号議案 議事録署名人選任の件

議長は浅野盛治、夏原晃子両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

第 4 号議案 (臨時) (株) ビジネス・コープ加入に関する件 (本部組織委員会より提案。)

会員の福利厚生のため (株) ビジネス・コープの「福利厚生充実プラン」へ加入に関して、議長は承認を諮り、異議なく承認された。

●訂正とお詫び

JID NEWS 210 号で、以下の誤りがありました。ここに訂正させていただき、関係者各位には多大なご迷惑をお掛けいたしましたことと、御詫びいたします (なお、お名前のみの訂正とさせていただきます)。

高山恵三郎→高川恵三郎、栗原直道→栗原満直、山口文豪→山口文象、森谷廷雄→森谷延雄、森谷廷周→森谷延周、板倉準三→坂倉準三、近藤晴夫→近藤康夫、野口真理→野口真里、新井宏→新井宏祐、阪田専正→坂田守正、波部式部→渡部式部、中泉僧正→中里信正、奥山寿一→奥山壽一、館野羊一→館野羊一、また、中田重克 (嬢榮、とありますのは、中田重克 (建築、の誤りです。

ライフスタイル設計競技報告

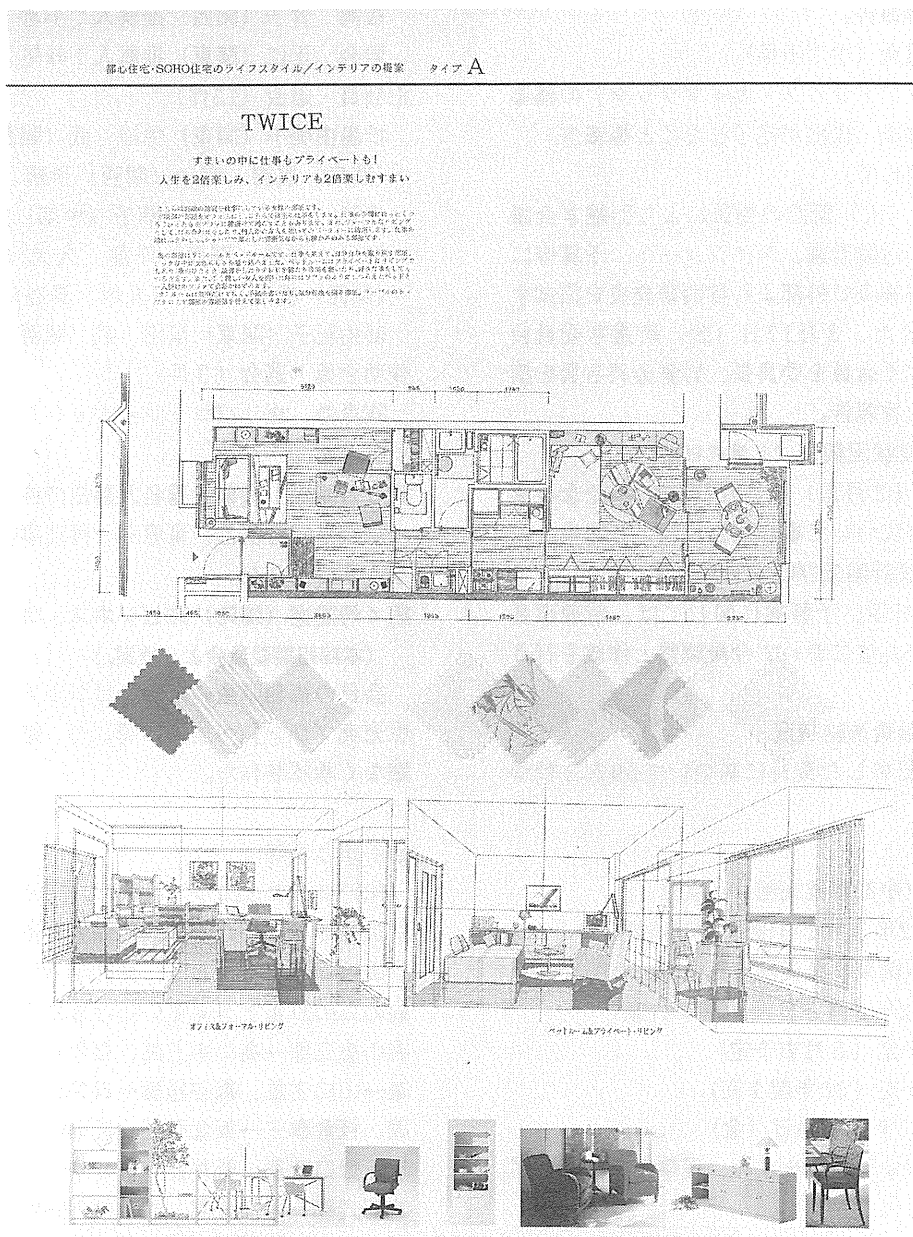
—住宅・都市整備公団による都心居住をテーマとして—

平成11年から12年にかけて住宅・都市整備公団東京支社の企画によって、連続的に亀戸、南千住、目黒と3箇所を対象に設計競技が行われた。応募対象は競技内容によって亀戸は当協会、プランナー協会、店舗システム協会、南千住はこれに加えるにコーディネーターを推進するインテリア産業協会、目黒はスケルトン・インフィルという性格もあって私たちの協会とプランナー協会に絞られ、いずれも在住東京会員が対象とされた。因に、審査は整備公団関係者、参加組織代表者および公団に長く関わられている山本棟子（目黒は不参加）の諸氏である。

かつての郊外住宅指向はそのための都市環境の悪化や通勤問題など80年代から見直しが始まっていたが、現在ではアーバンライフの充実が都市の必須条件になっている。今回の住都公団のインテリアライフスタイル競技の意向も「都市居住」を意識して取り組まれた最初のプロジェクトである。モデルルームの設営をライフスタイルの提案と結び付け、しかも、インテリアのプロ集団への呼びかけは公団にとって大きな試みであったろうが、私たちにとっては能力と積極性を示すべき重要な機会であったと思う。

事実、以下の受賞者に示されるように私たちの組織が他の集団に比し、創造、研究に関して強い集団であることを示したといえよう。

紙面の都合で優秀賞のみの写真表示だが、氏名はJIDの受賞者すべてを掲載する。各氏名に続く鍵括弧は作品タイトルである。



アーバンライフ亀戸 (SOHO住宅)

応募登録者33名、応募者15名、応募点数24点中、優秀賞2名、入賞14名

●優秀賞 (賞金3万円モデルルーム作成業務費+25万円)

Aタイプ ○今崎務/池上真由美、今崎務デザイン研究所 「TWICE」

Bタイプ ○村口峯子/寺本文子、村口峯子デザイン事務所 「ミニマムで豊かなシニアライフ」

●入賞 (3万円)

Aタイプ ○鳥居貴正・菜穂子/関万規子、アトリエ NORTH 「2人で住む部屋」

○野田和子 スペースクリエイトK.「フレキシブルなホームオフィス」

Bタイプ ○村口峯子/寺本文子、村口峯子デザイン事務所 「SOHOで生まれる新しい時間」

○野田和子 スペースクリエイトK.「フレキシブルなホームオフィス」

SOHO南千住 (川の手に住まう)

応募登録者47名、応募者21名、応募点数28点の内優秀賞2名、入賞者8名

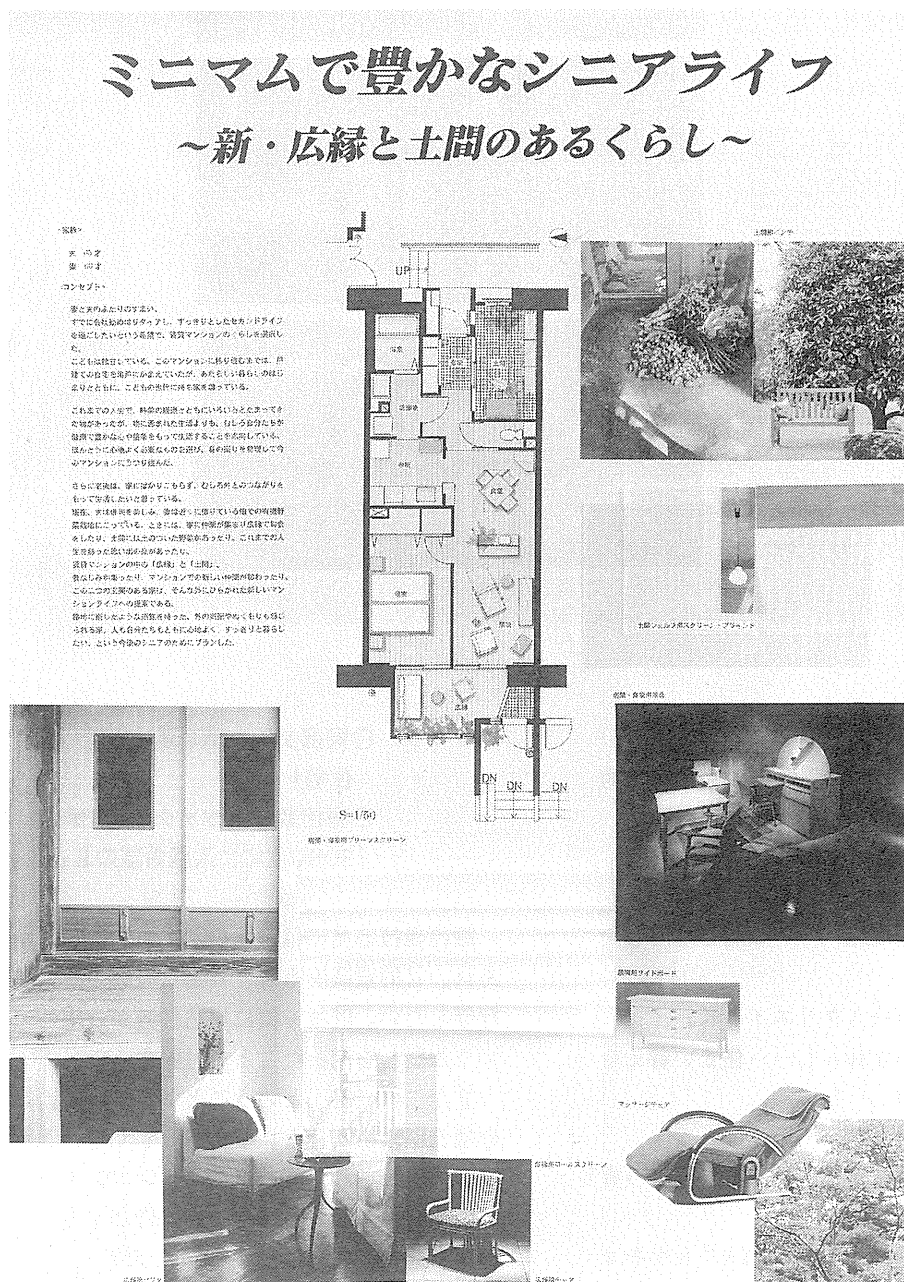
●入賞 (賞金5万円)

Aタイプ ○今崎務/池上真由美、今崎務デザイン研究所 「WITH DREAM」

○岡部文絵 okb design 「子供のいない共働き夫婦」

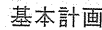
Bタイプ ○宮代紀子 ミュウプラス (有) 「おとなと子供の居心地のいい場所」

○酒井正人サカイデザインネットワーク (有) 「週末を楽しむアクティブなニューファミリー」



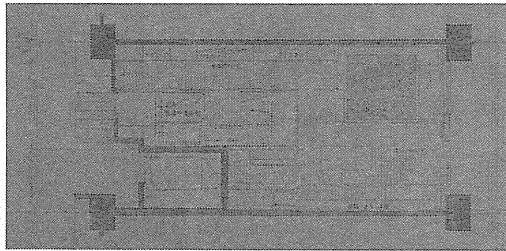
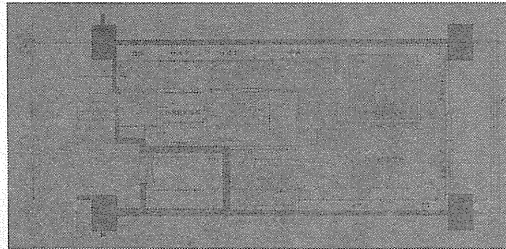
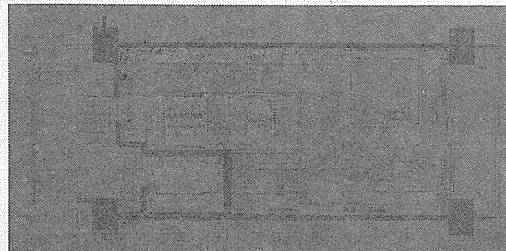
村口峯子/寺本文子
村口峯子デザイン研究所
「ミニマムで豊かなシニアライフ」

平井みつる
アトリエM
「都心の52.5㎡に住まう・・・
KSIを活用した住宅・・・



知能は一人前の高校生レベルと想定したい。が、住まい方によって生活の質は大きく異なる。リビング、ダイニング、ベッドルーム等をスペースを効率的に活用できたり、可能な限り窓の開放を確保したり、庭や半開放的な外創り出すことで暑さを排除したい。空室は、くつろぎの場。食事を楽しむも、読書したいも仕事もできる。住まいの良し悪しを判断する上で色んなファクターが関係する。病院は駅と住まいの間のアクセスも重要。ワークアウトの設備、そして通学。どのようなライフスタイルを追求したいのかに丁寧に顧客の相談をする。

- ① 奴隷は道具を人間に上回ることを企てる過程に出現する人の住み
 ② 自然科で特有のメカニズムを演習し、後継者の選択によって決定する形性
- ① 奴隷 - Elly Way
 - ② 富豪 - Elly - Elly Way
 - ③ 床、窓、窓の柱上材と窓面をつなぐ
 - ④ 服装性、模倣器具
- 奴隷はガウス系系系系システムと、企業は模倣性、GM、模倣性で再構築する
 システムとなる。

[illegible][illegible][illegible]

- 8 -

・・・住まい替えを楽しむ賃貸住宅・・・

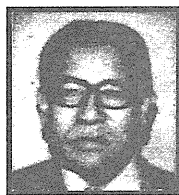
野田和子
スペースクリエイトK
「解放空間で自由な暮らし……
住まい替えを楽しむ賃貸住宅……」

武蔵野美術大学

岳父清水 武、永眠致しました

関東事業支部会員 木村戦太郎

岳父清水 武は昨年11月15日に永眠、享年89才でした。私は生憎IFFT'99特別イベントの（締切り過ぎの）パンフレット印刷原稿作成が深夜までかかり、結局通夜には出席出来ませんでした。



父は東京高等工芸の出身で、豊口克平氏、剣持 勇氏の後輩、渡辺 力氏の先輩になります。戦前は満鉄で車両設計に当り、戦後は清水建設設計部に在籍、定年後はライフワークのジョイントコネクターの研究に没頭しました。その成果は'72年協会賞「システム収納家具のデザイン」、'73年軽金属協会コンペ金賞、'75年最北精密工業コンペ銀賞、さらに、数々の国内外の特許取得などにも表れています。意欲と体力は晩年まで衰えず、80才半ばを過ぎても、大きなショルダーバッグ一杯にサンプルや書類を詰めて飛歩いておりました。流石に最後の数年は体力も落ち、酒も止められて寂しそうでした。

無類の酒豪でマイペース、仕事では頑固一徹の人柄で、ご迷惑をお掛けした向きも多かったと思いますが、憎めない愛嬌もありました。私などには到底真似出来ない、豪快な人生を全うした人だったと思います。

鹿島幸雄氏を偲んで

藤村盛造

鹿島氏と知り合ったのは今から11年ほどまえに、ニューオフィス協議会が主催するオフィス研究の調査団体旅行でアメリカの都市を一緒にまわったのが最初だった。旅行中、一度、皆で情報交換の会議を開いたりしてすっかり、お互い打ち解けて、話をする様に成った。シカゴで毎年開かれていたNEOCON見学が最終日の日に私の部屋で大パーティを開いた。朝の3時ごろまで皆で騒ぎ、最後まで静かに呑んでいたのが鹿島氏だった。お互い仕事や知人が共通していて意気投合し、その後の付き合いがはじまった。鹿島氏の専門分野はAV装置のついた会議室で、氏の手掛けたところは多い。クラシック音楽を好み、家庭では、また家族思いの愛妻家で、娘が美大を受験したのを事の外喜んでいた。



いつか画集を戴いたが、モノトーンで描くスケッチも鹿島氏の趣味をとおり越してアートの領域に入っていた。千葉・館山に近い漁村に一軒屋を借りてデザインの

世界から離れ、そこで大作を描いていた。度々、魚釣りの誘いの電話があり、昨年五月の連休に一度、訪ねていった氏独特の世界を描いた十数点の大きい絵を拝見したのが最後となった。エネルギーを注ぎ込んだ彼の絵の中に家族や友人たちへのメッセージがこめられている様と思う。

音楽と酒を愛し、ただひたすら描く事に生甲斐を求めていた愛すべき鹿島氏に敬意を表しご冥福をお祈りしたいと思う。

大内一雄君を悼む

関東事業支部 今井 滋

大内君とは、受験番号が1番違い・生年の月日が1日違い・家が近い（歩いて10分）・約60年の付き合いで行ったり来たり、兄弟以上だったので、余り近すぎて簡単に書くことができません。



昨年暮には一緒に食事をし、正月になったので一杯飲もうかと思っていた矢先、訃報が入り飛び上がるほど驚きました。1月3日に感冒の兆候があったが病院が休みで4日に入院、14日午前10時22分肺炎のため亡くなったそうです（享年74才）。通夜・葬儀には当協会会員の方々や学校関係の方々も沢山来ておられました。

戦中・戦後の混乱期には共に闘病生活、彼は3度の大手術にも耐え、何時もにこにこ人話を聞き相談にのっており「仏の大内」といわれる人柄でした。卒業後は育英・工学院で教鞭を取り、人間工学の研究のために千葉大学工学部に招かれその後学位（工学博士）を取り、日大工学部（郡山）の教授に招かれました。定年後は千葉工業大学でしばらく教鞭をとっておられました。千葉大や千葉工業大の人間工学は、殆ど彼が作り上げたものでしょう。亡くなるまで講議のうわ言を言っていたそうです。

長い間ご苦労さまでした。ご冥福を祈ります。

合 掌。

前原紀雄さんを悼む

関東事業支部 井上 昇

去る2月4日の朝、前原紀雄さんは天国へ旅立たれました。大腸癌の手術後、1年半余の闘病生活のあと立派に成人された最愛の2人のお嬢さんと奥さんと多くの友に見送らながら。54歳でした。JIDのなかにあつてはあまりめだたれなかったかもしれません。会員番号が763

番で724番の私と大差ないことからJIDの中では古株とは言えませんがJIDにとってはとても大切な仕事を遺されました。



それは現在のJID事務局のインテリアを担当された方だからです。古い会員のかたは覚えていられると思いますが恵比寿の狭い事務局から移転の話が持ち上がったのは名古屋での国際デザイン会議の前でした。国際会議で世界中からお客を迎える事務局としてはあまりにひどい。ましてやインテリアをなりわいとしている事務局として。森谷延周さんが総務担当理事だった時でまず私が引き込まれ、私が共に(株)岡村製作所時代の同期入社、かつ机をならべていたオフィスインテリアのプロ中のプロ前原紀雄さんを引き込み、新宿パークタワーの現在の事務局の最初から最後までオフィスインテリア、レイアウト等を彼にやって頂きました。

前原さんは1968年、多摩美を卒業後(株)岡村製作所に入り一貫してオフィスインテリアの仕事をし、独立して(有)スタジオ・エム 代表取締役兼デザイナーとして活躍されました。最近の仕事としては会計監査法人としては有名なアーサーアンダーセンや朝日監査法人のオフィスインテリアを一貫してやっておられました。故剣持勇教授に薫陶をうけた最後の世代の一人として裏表のないサムライのスピリッツをもっていた人でした。またあう日までさようなら。 合掌。

榊谷賢一氏を悼んで

中部事業支部担当理事 関 里繪子

去る3月1日(水)20時15分、かつてはヴァイタリティのかたまりとも思えたあの榊谷氏が64歳の若さでこの世を去った。



支部長の頃の活発な姿を知る方々には思いもかけぬ訃報だったにちがいない。だか、病魔はその頃すでに住み着いていたようだ。福井から名古屋までの日帰り往復を愛車を走らせ通った氏だか、いつか会議の折、私も名古屋へ向かう電車の中で『オーッ』と不意に声をかけられたことがあった。『車は疲れるから僕も電車にしたヨ』と。今思うとあれは確実に病の兆候でした。

5年前頃からは、何時もポケットに薬を忍ばせ、『ドクターストップがかかってんだヨ』と平然と笑って、何度か入退院を繰り返して、プツツリと会にはお顔を見せて貰えなくなりました。いつも明るく前向きだった氏の様子からは誰もがそれ程深刻なものには感じませんでした。それは氏の意図的なものなのか否かは知る術もあり

ませんが、私には前者に思えてなりません。

常に仲間のことを思い、全力投球で積極的な協会活動をされた榊谷氏の功績には誠に重いものを感じて止みません。健康でさえあれば今頃は、きっと協会に多くの刺激をもたらし活動されていたにちがいないと思います。今心身の苦痛から解放され、たとえおせっかいと言われても変わらぬ声援を天国から送って下さることでしょう。

どっしりとした身体に似合う大きな良い声で、飲むといつも歌った英語の“思い出のサンフランシスコ”を思い出す人は多いことと存じます。

氏のご功績に心から感謝し、ご冥福をお祈り致します。

後藤宣夫さんの死を悼む

川上信二

3月3日、後藤さんが亡くなったとの知らせを当協会の竹中幸雄さんから受け、余りのことで俄かには信じられなかった。



9日の通夜の法要まで少し日があり、その間、後藤さんの面影が走馬灯のように思いだされた。

丹下研時代のフランス滞在経験を活かして、当協会では80年代の国際委員会で瓢々とした姿で活躍されていた姿が忘れられない。

87年発行のIFI世界インテリアデザイナー作品集の編集では建築家としての目から大きな役割を果たされ、アムステルダムのデザイン会議でもJID代表メンバーとして円卓会議でその持ち味を発揮されていた。

私にとって、もっとも忘れられないのは、その会議のあと二人でバルセロナのガウディ行脚を共にしたことである。無理を言って非番の門番に開けてもらった地下聖堂での、至福とも言える体験はその中でも秀逸な思い出である。

通夜の席で、親友であったという写真家と同席し、大学での研究生活や亡くなるまでの闘病生活など聞くことができたが、まだまだこれから、その独特の持ち味に、磨きがかかることを期待していただけない、その死は惜しまれてならない。 享年61才。

ご冥福を祈るばかりである。

JID21世紀にむけて 関東事業支部委員会組織についての報告

関東事業支部 支部長 山下博之

会員の皆様には、関東事業支部活動にご理解、ご協力頂きありがとうございます。

JIDニュース208・209号でご報告いたしておりました様に、関東事業支部組織再構築案件を鋭意、委員長会議で協議してまいりました。委員会・支部組織をシンプル化し、情報の共有化が計れ、目的に即しアクティブで流動的な運営の出来る組織を目指しました。

新しい委員会・支部組織の概要がまとまりましたので、ご報告いたします。

以下のように、新しい組織を設置したいと思っています。今までの委員会委員の方々も関東担当・理事・支部長・副支部長・委員長等にご相談の上、再度どの委員会でご活躍頂くか検討ください。

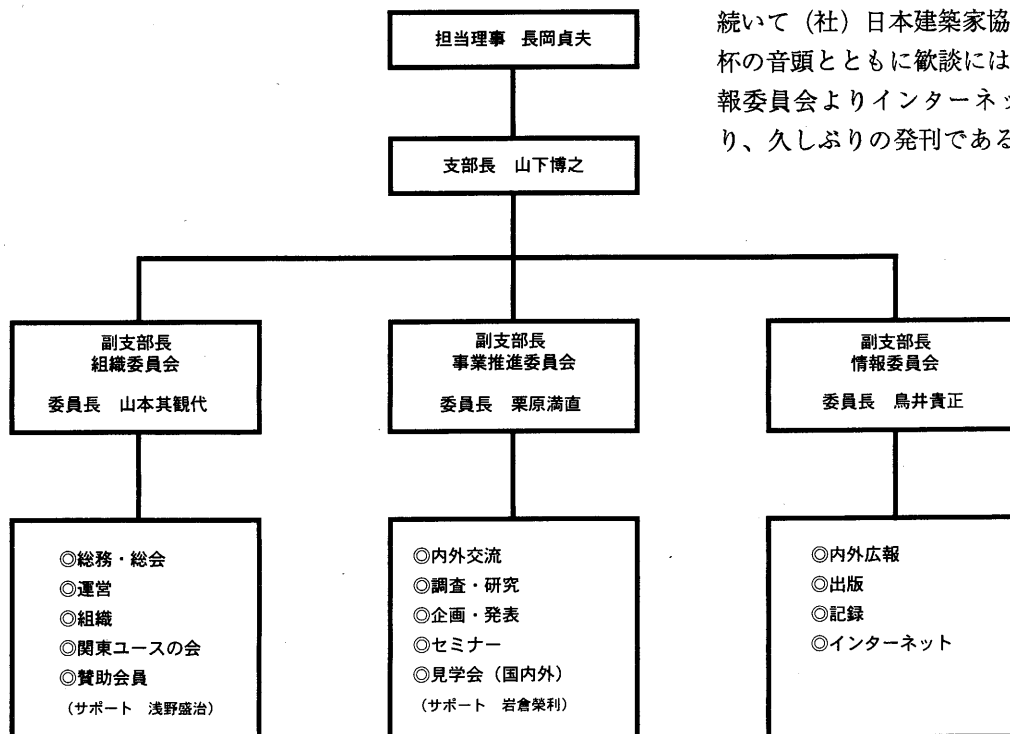
又、今まで委員会活動に参加されなかった皆さんも新しい関東組織・新委員会で、JID協会を『自分の力で』活発に活動する協会にしてみませんか？

JID協会は、皆さんの協会です、是非、何れかの委員会へ参加されますことをお願い致します。

1月26日（水）午後6時30分より本部事務局のある新宿パークタワー 8階 クラブスクエアにおいて2000年 NEW YEARS PARTYが開催されました。本部総務委員会が運営主体となり、本部交流委員会及び関東事業支部の全面的な協力により運営されました。通商産業省生活産業局デザイン政策室・室長千野雅人氏を初め、インテリア関連団体、建築関連団体のご来賓のご出席のもと約90名ほどの参加を得てにぎやかに開催されました。本部総務委員の鳥場淑高委員と関東事業支部交流委員の土橋隆子委員の司会進行により、泉理事長の挨拶で始まりました。

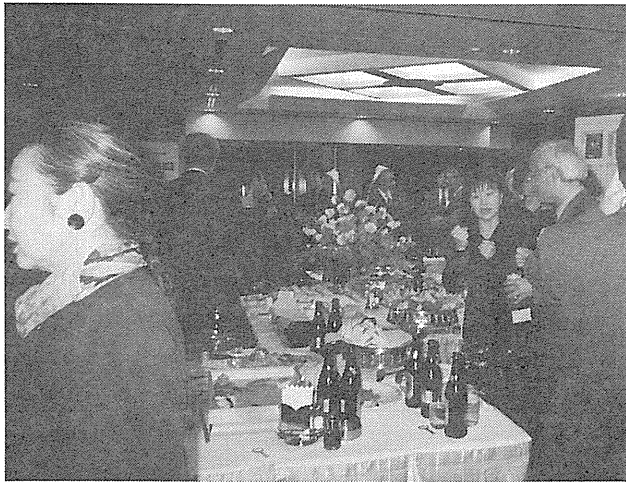
泉理事長からは、昨年行われた創立40周年の各種記念事業が厳しい経済環境の中で執り行われましたが、それなりの成果を上げられたこと、あわせて収支においてもバランスのとれた事業として完了したことの報告がなされました。よい成果と結果を出せたことは全会員と関係各位の絶大なるご協力によるものであったことのお礼が述べられました。

また、2000年の始まりに当たり今後インテリアデザイナーの社会における役割の重要性や次なる新しい時代に向かって当協会が前進する旨の挨拶がありました。続いて来賓の通商産業省生活産業局デザイン政策室・室長千野雅人氏からインテリアデザイナーの職能は今後の社会的役割が大きく期待する旨のご祝辞を頂きました。続いて（社）日本建築家協会・会長村尾成文氏による乾杯の音頭とともに歓談にはいりました。歓談のなか、広報委員会よりインターネットの紹介が鳥居貴正委員より、久しぶりの発刊である会報「JID」の苦労話やエビ



※各委員会に必要なに応じて副委員長を設ける。

※委員長会議は担当理事・支部長・委員長・議題のある副委員長及び委員・他で構成する。



パーティ会場風景

ソードなどが、出版委員会担当の山本棟子理事、熊木光吉委員から紹介されました。その他、交流委員会斉藤武行委員長より、デザイン供養が開催された淀江町長からの祝電が披露されました。閉会の挨拶は、副理事長夏原晃子により行われたものの、会が盛り上がりなかなか終宴を迎えないため、関東事業支部会員の田中聡行氏による一本締めが加わったほどでした。

通商産業省生活産業局デザイン政策室・室長千野雅人氏及び高橋保係長が会員との意見交換を会の終盤まで活発に行われるなど有意義なパーティであったと感じました。

デザインと文化で学生に刺激を。

賛助会員 東洋美術学校 小林 憲司

私は、学校法人専門学校 東洋美術学校にてインテリアデザイン科の専任講師をやっております。実際、何を書いて良いモノか？と考えましたが、私の観点からの本学科での昨年より実施している海外旅行研修を題材に文化とデザインから思うことを少し書こうと。

研修旅行の主な目的は、学生がデザインという勉強の中で、海外のデザインと文化に触れる事により、学校内では学ぶことの出来ない、グローバルな視点からの発想



来賓としてあいさつされる
通産省デザイン政策室 水野室長

のきっかけになればと思います、実施しました。

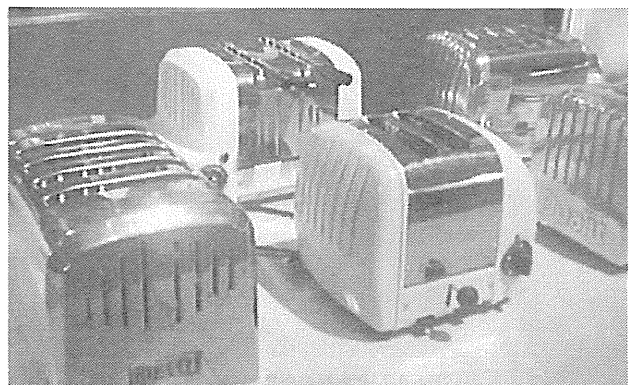
私にとっても初めての海外でしたが、やはり、その街を良く知るには歩く事が一番だと考え、イギリスの

街を歩いてみました。まず、当然ですが文化の違いをつくづくと感じました。例えば、駅やデパートの入り口のドアを前の人が必ずといっていいほど押さえていてくれます。そして、気持ちよく挨拶が交わされます。日本が謝る文化だとすれば、欧州などは感謝の文化だと思い、決して日本が嫌いな訳ではありませんが「やはり日本とは違うな。」と感じてしまいました。本校の学生にも、感謝と礼儀を徹底したいと痛感しました。

住宅の様式には合理的な考え方を実感しました。多くの家庭では、結婚当初は小さなアパートなどに住み、家族が増えると大きな家を購入、そして、子供が大きくなるとまた、小さな家に引っ越すという形が多いと教えてもらいました。私たちのツアーのガイドさんも4回引っ越しているとの事。そして、もっとも合理性を感じたのは、引っ越しに弁護士を立て、互いに引っ越す家の輪が完成すると、弁護士が一斉に動き一日で引っ越しが終了。しかし、この方法は非常に時間がかかってしまい、1年以上もかかることもあるそうです。

デザインに対する考え方も「シンプルで実用的」を徹底して守っており、最近では、非常に新しいデザインを多く取り入れています、それでも、古き良きモノはしっかりと守りつつ、新しいデザインを展開していく部分においては、日本も是非見習って欲しいと実感しました。

この研修を通して学生も良い刺激となったようです。また、何かを感じてくれればと思います、今後も続けていきたいと考えています。私もまだまだデザインに対しては勉強不足ですが、私達は教育の現場から、実社会に通用する学生を様々な方法で育成していきたいと思っております。



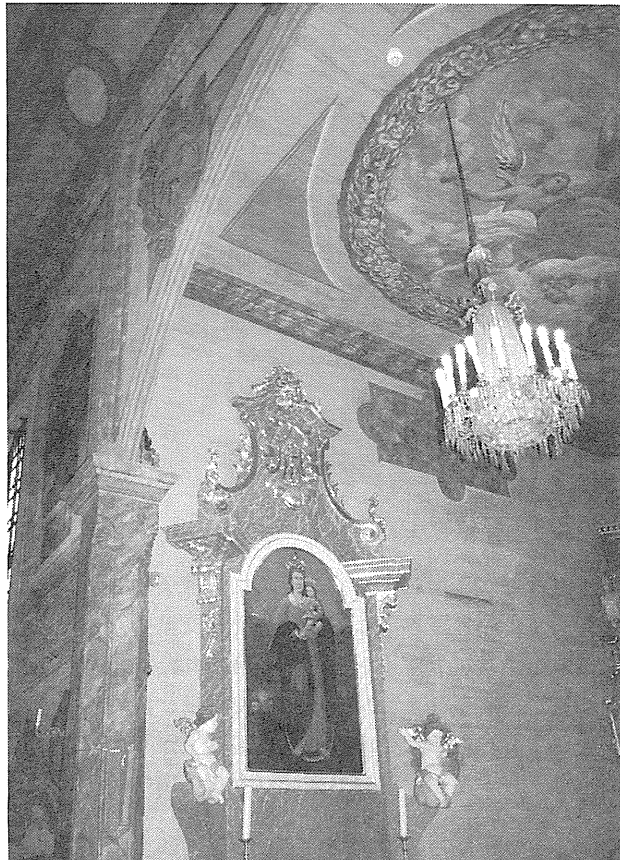
2000年 春・あわただしくも……

中部事業支部事業部会委員 星田 博子

愛知県デザインセンターの収蔵品展をこの3月担当しました。企画から関わったため、昨秋からの作業でしたが、会場設営の工夫も含めなかなか楽しいものでした。内容は収蔵品のヨーロッパ磁器（ヘレンド・ジノリ等）を用いたのテーブルコーディネートです。器のフォルムの美しさや独特な上絵付け・金彩に、和食器にはない「西洋の香り」を感じ面白かったです。

展示会の後片付け直後には、ポーランドへ10日間の旅行です。主に世界遺産の町並み・木造教会・現代建築を見ましたが、想像以上だったのが木造教会でした。

構造は四角柱を用いた校倉造りが多いということで、外観は木の自然な色の壁と黒っぽい屋根、といったってシンプルです。内部は木壁や梁なども美しく彩色され、一見大理石の柱が実は見事な着彩だったり、板壁に描かれた絵が立体的に見えるよう上手に陰影がつき、その「トロンプイユ（だまし絵）」が違和感のないもので驚きました。鮮やかに彩られた教会内部は大変美しく、その外観とのギャップに、西欧のインテリアに対する位置付



ポーランド木造教会内部

けを感じました。また、旅行直前の展示会で扱った西欧磁器の数々のデザインや装飾性とも通じる何かがあるようにも思います。この春は、あわただしくはありましたが、いくつかの体験を通して、今までとは違う角度でインテリアを想うことが出来たようです。



フォルムと色柄の美しいヨーロッパの陶器

語り合いの場

中部事業支部検討委員会委員 小柳 朝一

あるセミナーの講演をお引き受けすることになりました。タイトルは「空間デザイン教育・豊かさへのデザイン」。このセミナーはデザイナーの卵や若きデザイナーに参加を呼び掛け、主催団体・賛助企業のデザイナー、デザイン関係者が共に語り合う勉強会。現在の若い人達に不足している語り合う場を提供し、共にデザイン理念の構築やデザインマインドを高め合い、デザインを通じて、生活者にどのようなメッセージが発信出来るのか、人は何を求め、時代は何を必要としているかを探り、ヒューマンネットワークをつくる事を目的としたセミナーで

す。時代は淘汰の時代を迎え、物事の本質、根源が追求され、産業社会においても経済の新しいパラダイムが必要となり、本来デザインが求めていた“人間中心”（地球環境中心）へとようやく移行が始まった様です。協会のエコ・デザインブックもその現れと思います。

又、人と人との関係においても、不明瞭な情報が飛びかう社会（情報化社会）の中で、人に必要なコミュニケーションが忘れられ子供達や大人も閉塞感を感じながら、ある種の空虚感にさいなまされているのでは？このような状況からの離脱に必要な事は、人が出会い、語り合い、語り継ぐ場をつくる事が大切だと思います。語り合う事により想像力という力が湧き、自分自身の物語をつくっていく事に繋がり、人と人がコミュニケーションし合う事になっていくと思われます。豊かさへのデザイン、それは一人一人の心の豊かさと思われます。

コミュニケーションパーティー風景



講演風景



JID 企業デザインコンペECHO賞

関西事業支部特別部会部会長 清家 淳一
副部会長 山崎 晶 奈村 今日子

JID企業デザインコンペ

ECHO賞

JID会員と賛助会員をつなぐデザイン創出のための Communication & Competition の 2 つの性格をもったプロジェクト。いわば JID のデザインコンペ事業を開催し、賛助会員がそれを商品化する。競うこと (Competition) で会員相互の潜在能力の掘り起こしができると若いデザイナーが JID への魅力を持つことが考えられる。

商品化する過程において会員と賛助会員の (Communication) 相互のメリットが成り立ち、広報 (ECHO 誌) することで効果は数倍にもなります。

事業の主旨

(1) JID の存在・活動基盤・背景の変化への対応

JID の存在理由はデザインの振興と開発、デザイナーの社会活動、相互交流である。このことを目的に JID は、会員と法人等による賛助会員で構成されている。この構図は、デザイナーの交流組織に企業等の法人が「賛助 (暖かく支援) する」というものである。

法人等が JID を賛助する根拠は、JID によるデザインの振興、デザイナーの質の向上が賛助会員にとって間接的なメリットをもたらすものであるという考え方による。しかしこの構図は JID もしくは JID の会員にとっては JID 運営資金の援助という直接的メリットはあっても、法人会員にとってはそうした直接的なメリットがあるわけではない。この種の協会への賛助・支援は、企業等にとっていわば「メセナ」「交際費」のようなものである。

現在の社会経済状況はこうした構図を許容しないようになってきている。企業等は具体的なメリットを生み出さない活動をカットする方向に動いている。いっぽう自営業的なデザイナーは社会的活動領域の狭まりの中であえいでいる。状況は双方にとってたいへん厳しいものになっている。こうした中で休眠状態に陥っている協会が多い。

その理由は、こうした組織の多くが会員同士の交流・親睦を中心とした事業形態や組織形態の「余技」的なマインドを色濃く持っているためである。このマインドは高度経済成長期やバブル経済期のマインドを基盤にして

いる。賛助される側もする側も、バブル的な一種の「甘え」や「もたれあい」の構図を共有している。

しかし時代は変わった。少なくとも、本業と余技的な活動を分けて考えるような余裕は賛助される側にもないであろう。会員は協会に寄り付かなくなり、賛助会員は脱退していく。右肩上がりの経済を前提にしたシステムは、JID に限らずすべて見直しを迫られている。

(2) JID の新しい存在基盤を築くために

「旧体制の余技」から「新しいデザイン運動」への転換

現在、JID がそこに在るかどうかに関係なく、新しい時代状況に即した新しいデザイン運動が必要な時期に来ている。時代状況はあるものたちの終焉であると同時に、あるものたちの誕生の気運を胚胎している。近代デザイン運動の揺籃期のドイツ工作者連盟のような運動体が必要で、かつ生まれる可能性がある時期に至っている。

このような見通しをベースに、JID の「資源」を有効に活用していく——それが新しい JID の存在基盤の構築につながる。とりあえず、新しいデザイン運動を模索し、その中で新しい JID が再生することができればよい。

このような視野のもとで新しいデザイン運動を展開するにあたって、まず押えておかなければならないことは、デザイン活動は個人的な芸術活動と異なり、社会とユーザーとの関係の中で成立するということである。社会との関わりを失った時、そのデザイン活動は生命を失う。

これまでの JID は会員、賛助会員を問わず、各人の背後に社会を持ち、その社会を持つ様々な主体が寄り添うことで社会とつながってきた。しかし、今後の課題は、JID の中に社会を立ち上げさせなくてはならないということである。JID がデザインの動機を作り出し、そこに参加することで会員はデザイン社会を立ち上げていくという作業が必要である。

(3) 賛助会員と会員をつなぐプロジェクトを

賛助会員にとって魅力的な JID を作っていく——これ



ECHO は関西の企業スポンサーのご協力で年 2 回発行。関西支部の活動、会員のワークや作品の紹介、JID を考える意見、旅や等々。関西支部広報委員会、出版委員会 (今期からエコー誌委員会) の精力的な活動で発行を続けています。

がまず基本的な視点である。賛助会員は会員にとって一つの社会的窓口だからである。いっぽう賛助会員にとって会員は一つの社外資源（アウトソース）である。この二つのまなざしをクロスさせるプロジェクトを立ち上げなければならない。このことで会員と賛助会員があることのメリットを、相互に目に見えるものにしていかなければならない。それがこれからのJIDに必要な方向性である。

関西事業支部・支部長に就任して

八十 常充

この度、新しい世紀に繋がる、JIDとしても大変重要な時期に支部長を担当する事になり、役割の重大さを改めて感じています。

近年、次々と起る倒産や吸収合併などによる、リストラ、更に少年による凶悪犯罪など、今迄積み重ねて来た大きな成果が崩れ落ちる90年代となりました。

さて、この様な状況で私達は21世紀の絵をどの様に描けば良いのでしょうか。デザインは、JIDの役割は…長期、短期の課題を明確にし、明日のJIDの役割を会員皆さんの力を結集して、取り組まねばなりません。

長期課題では、日本の住環境の貧しさです。これは住まいに対する感性が貧弱で、一般の人はくらしの豊かさへのイメージはありません。人間として、感性の育む大切な時を受験準備に追われて、感情豊かな人間が育っていない。人にはそれぞれの価値観があり、それは尊重されるべきですが、地球全体を見て、日本の住環境はどんなものでしょうか。

幼児期に、自然と親しみ、芸術やデザインに接し、感性豊かに育った人間から個性豊かな、住まい方が現れるのではないのでしょうか。

また、日本は土地が狭く、住宅の面積が小さい。であればそれなりの知恵や工夫、デザイン提案こそ、JIDの課題であろう。

本年度、関西事業支部の活動組織は5部会と1つの特別部会に改めました。

総務部会、組織部会、情報部会、研究・発表部会、事業部会と特別部会。

特に研究／発表部会には、JIDとしての長期・短期の研究テーマをグループミーティングの形で取組みたいと思っています。

また、特別部会では、関西独自のユニークなデザイン



コンペが計画されるなど、楽しみながらJID活動を盛り上げて行きたいと考えています。

『つなぐ』をつなぐ

夏原 晃子

JIDでは、40周年のテーマを『つなぐ（創造、次世代への潮流）』という言葉で取り上げることにした。

この言葉は、現代の細分化された知識と正反対に人間や社会や自然について、基本的に総合的に考え続ける事から始まる古代ギリシャのアイデアと通じるものを含んでいると思う。何と何をつなぐかは、銘々のイメージと思考が尽きないに違いない。その幾つかの表現が黎明期から近現代のインテリアデザインとしての「日本の生活デザイン展」、現在活躍中の会員たちの二つの「椅子」展や各地での「フォーラム」等、出版物も含めると、その参加者の延べ人数は膨大なものになる。これは、会員同士、会員外、地域、時間、年齢を越えたひとつの「つながり」ではないだろうか。

地球上の人口が60億を越えた現在、今までの予想をはるかに超えそうな次世紀、次世代へ何をつなげるのか。インターネットという新たな情報網が地球を覆い、想像以上のスピードでコミュニケーションが交わされ、宇宙規模でのヴァーチャル経験も望めば可能な日も近いかも知れない。日常生活では明暗、冷暖、交通手段、衣食住などあらゆるモノの豊かさと快適さを求め、手に入れたと思える今、それらと引き換えに失った大切なものに気づいた。楽しい筈のマイホームがシックハウスであったり、美味しい筈の御馳走が添加物まみれであったり、心地好いリゾート地の汚染まで、事物の歪みが異常気象や精神不安定の要因になりかねない。新しい世紀が争いや飢餓を超えて少しでも健全であるためには、何を守り何を辛抱するかを選択するのに決してもう早い時期ではない。コンピューターが膨大な過去の歴史と文化を解きあかす助けをする時、今までの進歩を無駄にしない循環型の社会へ、個人も集団も創造力をもってその転換を測りたい。これこそ『つなぐ（創造、次世代への潮流）』ではないか。省けないコストでも、より安全で循環型の美しいデザインの普及に努め、創造的で心柔らかな省エネルギー生活の提案者としてのデザイナーの役目は重い。

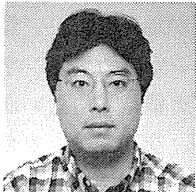
芸術から科学まで、豊かなイメージと高いアイデアが過去から未来を創造と想像によりつなぐ。

JIDの先人方を想いながら若い力に『つなぐ』が繋がれることを期待している。私にとっても久しいテーマになりそうだ。

〔 新 入 会 員 の 紹 介 〕

●新しく会員になられた方々です。新しい仲間としてよろしくお願いいたします。

●正会員

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
いけ ぎよ てる お 池 崎 照 夫 会員番号 1175 	〈勤務先・事務所〉 〈自 宅〉 〈推 薦 者〉	池崎デザインオフィス 埼玉県蓮田市西城2-36-1 〒349-0145 TEL・FAX 048-764-0680 同 上 浅野 盛治・峰尾 武
いの うえ まさ こ 井 上 雅 子 会員番号 1176 	〈勤務先・事務所〉 〈自 宅〉 〈推 薦 者〉	井上商環境設計(株) 香川県高松市木太町3区2014-7 〒760-0080 TEL 087-834-4335 FAX 087-834-5737 同 上 岩倉 榮利・小宮 容一
いわ ごう まさ ひと 岩 合 正 仁 会員番号 1177 	〈勤務先・事務所〉 〈自 宅〉 〈推 薦 者〉	(有) レイ・デザインテック 東京都台東区東上野3-15-2第二国際ビル2F 〒110-0015 TEL 03-3839-0233 FAX 03-3839-0234 東京都江東区南砂2-34-8-516 〒136-0076 TEL・FAX 03-3649-1486 浅野 盛治・峰尾 武
ふく おか いく こ 福 岡 育 子 会員番号 1178 	〈勤務先・事務所〉 〈自 宅〉 〈推 薦 者〉	(株)遠藤剛生建築設計事務所 大阪府大阪市北区紅梅町3-4 〒530-0038 TEL 06-6356-1250 FAX 06-6356-4088 大阪府堺市野尻町405-8 〒599-8116 TEL・FAX 0722-86-5548 小宮 容一・中川 武

2000/6~7

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報 (2000年通巻211号) 2000年6月5日発行

発行所／社団法人 日本インテリアデザイナー協会

発行人／泉 修二

〒163-1008 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F

TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559

企画・編集／JID NEWS 企画担当 山口道夫 制作／be-one

平成 12 年 6 月 9 日

会員各位

(社) 日本インテリアデザイナー協会

事務局長代理 峰 尾 武

平素は協会事業にご協力を賜りありがとうございます。

本日 JID NEWS 最新号お送りいたします。

さて、先般御配りいたしました、第 32 回総会資料に一部訂正、加筆がございましたので、
ここにお詫びして修正ページ 2 枚をお送りいたしますので差し替え下さいますようお願い
申し上げます。

なお、この修正ページは 5 月 26 日開催されました通常総会の受付けにて配布されたもの
です。

1. 総会資料 14 頁 創立 40 周年記念事業収支決算報告書 (案)

Ⅱ 支出の部

2. 総会資料 26 頁 組織図

委員長未定欄 → 決定

以上

創立40周年記念事業収支決算報告書(案)

自 平成11年4月1日 至 平成12年3月31日

I 収入の部

(単位:円)

大 科 目	小 科 目	平成11年度予算額	平成11年度決算額	増 減
1. 協賛金収入		2,000,000	0	2,000,000
	正 会 員 基 金 収 入	—	0	—
	賛 助 会 員 基 金 収 入	—	0	—
	名 誉 会 員 基 金 収 入	—	0	—
2. 事業収入		0	15,111,320	△ 15,111,320
	J I D 展 委 員 会	0	2,058,000	△ 2,058,000
	ワーク集出版委員会	0	137,055	△ 137,055
	デザイン展委員会	0	12,799,265	△ 12,799,265
	シンポジウム委員会	0	117,000	△ 117,000
3. その他の収入	受 取 利 息	0	862	△ 862
5. 収入合計		2,000,000	15,112,182	△ 13,112,182

II 支出の部

大 科 目	小 科 目	平成11年度予算額	平成11年度決算額	増 減
1. 事業費		0	19,364,565	△ 19,364,565
	広 報 委 員 会	0	391,740	△ 391,740
	J I D 展 委 員 会	0	2,062,530	△ 2,062,530
	シンポジウム委員会	0	469,387	△ 469,387
	デザイン展委員会	0	16,436,208	△ 16,436,208
	ワーク集出版委員会	0	4,700	△ 4,700
2. 管理費	雑 費	0	46,757	△ 46,757
3. 当期支出合計		0	19,411,322	△ 19,411,322
4. 当期収支差額		2,000,000	△ 4,299,140	6,299,140
5. 支出合計		2,000,000	15,112,182	△ 13,112,182

【会員の異動】

ご面倒でも、1999～2000 年版「会員名簿」の該当のページを開けて、ご訂正ください。

●正会員

名前	頁	異動事項	新
稲垣 紘一郎	関東 6p	事務所新設	INA INTERIOR 〒229-1111 神奈川県相模原市宮下本町 1-4-18 TEL・FAX 042-753-6387
入江 すぎ枝	関東 6p	事務所移転	〒359-0003 埼玉県所沢市中富南 4-3 セトラハイツ 4-203 TEL 042-991-6570 FAX 042-991-6569
入江 満	関東 6p	事務所移転	〒359-0003 埼玉県所沢市中富南 4-3 セトラハイツ 4-203 TEL 042-991-6570 FAX 042-991-6569
吉良ヒロノブ	関東 10p	事務所移転	〒150-0032 東京都渋谷区鶯谷町 19-18 ファースマンション七久保 101 TEL 03-5428-5753 FAX 03-5428-5754
小松原 ひろみ	関東 11p	自宅 FAX 勤務先	FAX 042-373-2195 日本ベッド製造(株) 特販部 インテリア設計 〒146-0082 東京都大田区池上 5-6-3 TEL 03-3753-4382 FAX 03-3755-7672
道明 三千代	関東 15p	勤務先	(株)織絵 〒107-0061 東京都港区北青山 2-9-16 AAビル 1F TEL 03-5772-5801 FAX 03-5772-5803
中島 明人	関東 15p	自宅移転 事務所移転	〒980-0004 宮城県仙台市青葉区宮町 3-9-12 K2 宮町ビル 201 TEL 022-262-3119 (株)ワコール インテリア事業部 仙台営業所 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央 3-8-5 和泉中央 STビル 202 TEL 022-371-3951 FAX 022-371-3956
中川 帛子	関東 15p	事務所 FAX 自宅 TEL	事務所 FAX 044-977-0233 自宅 TEL 044-977-7750
中曾 雄二	関東 15p	事務所新設	(株)プロダクトクリエイティブ デザイン 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-21-5 松村ビル 5-A TEL 03-5772-5790 FAX 03-5772-5795
橋本 勇治	関東 17p	事務所移転	〒188-0013 東京都田無市向台町 5-4-1-414 TEL・FAX 0424-61-5344
安武 満智子	関東 20p	事務所移転	〒114-0003 東京都北区豊島 8-27-1-702 TEL 03-5902-3391 FAX 03-5902-3392
中村 洋介	関西 27p	事務所移転	〒545-0052 大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-5-1 あべのビル 11F TEL 06-6630-6290 FAX 06-6630-6296
野原 建広	関西 28p	自宅移転	〒679-4313 兵庫県揖保郡新宮町新宮 639-5 TEL・FAX 0791-76-2211

●賛助会員

社名	頁	異動事項	新
アスワン(株)	33p	担当者	澤井 博
鹿島建設(株)	34p	担当者	インテリアデザイン部 臼井 憲二 TEL 03-5561-2482
(株)丸光商店	37p	担当者	代表取締役 伊達 忠伸

2000.6.6 現在